

# 雅ねえの、みんなで取り組む

# 獣害対策講座 Vol.1

※タイトル・本文に記載している『雅ねえ』の表記は、本人の原稿どおりで掲載の了承を得ています。

▶ 昨年10月20日に開催した『みんなで取り組む鳥獣害被害対策研修会』の様子



「広報おおさき」をお読みの皆様、初めまして、雅ねえだよ。昨年秋に町でやった獣害対策講習会に参加された方たちには、お久しぶり：：かな。獣害対策講座が連載されることになりました。連載はじまったきっかけは、あたしが県内で定期的に行っている研修会に参加された町の担当者さんの依頼。担当者さんが、「獣害対策ってわかってやればバカみたいに簡単だけど、被害受けて腹立ちまみれでやると泥沼地獄」ってことを理解してくれたからかな。

さらにさつま町とかで永年被害に苦しんでいた、じいちゃんやばあちゃんがちよつと勉強しただけで、あつという間にイノシシ被害なくして、畑で笑顔の写真を「広報さつま」で紹介されているのが追い打ちをかけたかも。獣害対策ってとにかく、わかれば簡単。わかってもらいたいから、きれいごと並べるより、失礼なこと、生気なこと、過激なこといっぱい書きます。連載だから、読んで腹がたつ号も毎号捨てないで何度も読み返してほしい。

## 見えてくる来ないが分かれ目

人間っておかしいですよ。興味がないものとか必要でなくなつたものって見えてるのに見えてない。意味も考へない。

例えば、新しく乗用のトラクタ買って納屋に入れられるように納屋の入口付近片づけて、今まで使っていた耕運機は納屋の奥の壁に横付ける。もう使わなくなつた耕運機の周囲には、いつ使うのかも

## 役場農林振興課 林務水産係から

平成27年6月26日、鹿児島県主催の「集落ぐるみの鳥獣被害対策指導者育成研修」に初参加、『雅ねえ』の講演を聴いた時の感動を今でも鮮明に覚えています。講演を聴くまでは、有害鳥獣の対策等は林務水産係が窓口と思っていました。しかし、被害が出ている現場は、水稲や野菜畑・果樹園だけでなく飼料畑・畜舎や家庭菜園等、多岐にわたっています。

そこで、農林振興課の職員を中心とした「大崎町有害鳥獣対策実施隊」を設置し、係を越えて県主催の研修受講や、関係機関との協議会で鳥獣害対策を議題にした研修会を重ねて、現状と課題を共有・学習し、意識の改革に取り組んできました。

去年は、本町に『雅ねえ』にお越しいただき研修会も開催しました。野生鳥獣の被害に悩んでおられる住民に、獣害対策を広く伝達する手段として、広報誌を活用し、被害軽減が進むことを願った新企画です。

1年間、広報原稿を依頼しましたところ、快くお引き受けいただきました『雅ねえ』に紙面を借りて感謝申し上げます。

分らない竹の支柱とか、古い肥料袋とかいろんな不用品がたまっていくでしょ。その上に平気で古い木製梯子置いたりとか。

で、納屋のトラクタと壁のすき間に、何年も絶対に足を踏み入れない空間ができる。毎日見ている納屋なのに、使わなくなつた耕運機の奥で何が起きてるかなんて、気づかないし見ようとさえしない。

「人間が来たときは鳴いたり音立てちゃダメ」とか教えながら、納屋にタヌキが住み着いて子育てしていても

づかない。

じゃあ、どうしてタヌキが住み着いたのか？理由がわかれば話は簡単。

## 安心して食える所に住みたい

とにかく、とにかく、とにかく、動物は「安心して食える所に住みたい」だけ。

今も、百年前も、千年前も、動物って何も変わっていない。ネズミからシカ、イノシシまで、動物はとにかく安心して食える所に住みたい。